

茶畑 SRtimes

第 1 回 S S H 国際交流講演会 「From Curry to Culture」

令和 8 年 5 月 20 日(水)16:00~17:00 に、5 階多目的室 C D で第 1 回 S S H 国際交流講演会が実施され、生徒 72 名が参加しました。今年度 1 回目の講演会の講師は、イギリス出身の本校 A L T William James 氏で、演題は「From Curry to Culture」でした。

William James 氏は、大学で海洋生物学の研究活動を行っていましたが、今回の講演会では、イギリスと日本における交通ルール、城、マナー、食文化などを例に挙げ、共通点と相違点について、歴史的な背景にフォーカスをしながらユーモアを交えて教えてくださいました。思いもよらぬところが共通していたときや、予想と違う説明が返ってきたときには、会場に驚きの声が溢れました。



講演後、生徒からウィリアム先生へ講義の内容への質問がありました。

Q. イギリスと日本どちらが好きですか？

A. すごく難しい質問だけど、今は日本が好きです。もちろんイギリスが母国でもありますので、十年後にイギリスに戻ったら、イギリスが好きになっているかもしれません。

Q. "wagamama" というイギリスで最も有名な日本のレストランを見たときどう思いましたか？

A. 長い間行ってないです。小さい頃行ったことがあるけど、日本に来て、本物の日本食を知ってからは、"wagamama" の料理は違うな、と感じています。

～参加者の感想～

国際社会で活躍する人になるために、まずは自国と諸外国の関係性を知ることが必要だと思った。実際にウィリアム先生の話聞いてみて、日本とイギリスの関係性を多くの視点で知り、やはり文化の尊重と与えてもらった恩は返すということが国境を越えて仲良くなるうえで重要だと思った。(1年)

イギリスのユーモアの特徴が興味深いと感じた。自虐的なユーモアも一般的に使われていることが意外だったので具体的にどのようなものがあるのか調べてみたい。日本とイギリスのどちらも控えめな表現をするが意味はその言葉より強くなっていることが興味深かった。(1年)

今回の講義は全部英語で、理解できる部分もあればそうでなかった部分もあったので、リスニング力を高めたいと思った。英語の勉強のモチベーションが上がった。資料にのっている、分からなかった単語を調べてしっかり理解できるようにしたい。(2年)

イギリスに限らず、国々の文化が違うのは、根源となる「影響を受けたもの」が異なるからだと感じた。今回の講演は、文化が違う「理由」まで深掘りしていて、「なぜ？」を追求していく大切さを感じた。(2年)

《編集後記》イギリスと日本の文化の違いについて深く考えている生徒が多く見受けられ、有意義な時間を過ごせたと思います。また、生徒どうし話し合いの時間でも積極的に英語で話している様子が見られました。学年問わず質問していて、活発な講演会にすることができました。今回のSRtimesをまとめるなかで、ウィリアム先生の故郷であるイギリスについて改めてよく考え、学ぶことができました。このSRtimesを読むことで、講演会に参加できなかった人も異文化や国際交流に興味をもつきっかけになれば良いと思います。



講演後質問する生徒

Why is this? There are two ideas as to why.....

The feudal system

- Both UK and Japan had a feudal class.
- UK had swordsmen
- Japan had samurai
- Drawing swords when travelling was easier
- This tradition of moving on the left stayed until

UK import

- Meiji restoration, Foreign countries helped build Japan
- UK had first trains and factories.
- Built them the same in Japan as in the UK, copying UK left side travel



日本とイギリスの共通点についてのスライド資料